

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大学名	金沢大学
整理番号	AR04
事業名	日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、金沢大学とロシアの10機関との間において、既の実績のある研究者交流を学生交流へと拡大し、将来の日露関係を担う人材育成に貢献するため、体系的かつ多層的な質の保証された交流プログラムの構築を試みたものである。プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み入れることによって、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開、更に「21世紀の知(価値)のロシアン・シルクロード」の実現を目標としている。 事業展開では、学士課程学生を主対象とし、ロシア・日本に対する興味喚起を目的とする文化交流プログラム、低温物理学分野の博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施する基礎科学交流プログラム、実学的な分野である機械工学・情報科学・環境科学分野で、主として博士前期課程の学生を対象に、今後の地域間企業連携を見据えた企業でのインターンシップ等を含んだ先端科学技術交流プログラム、これまでの密接な研究協力の実績がある脳神経科学分野に加え、予防医科学、がん医科学、循環医科学分野における博士課程交流プログラムを含む先制医療交流プログラムの4つの交流プログラムを展開した。 4つの交流プログラム全体にわたってカリキュラム構成が明確であり、シラバスの共有化とweb公開、学修ポートフォリオの活用、ルーブリックと成績認定・学位審査基準の共有が実施された。学生受入及び派遣の支援体制については、キャリアカウンセラー、メンタルカウンセラーを配置する等、研究面のみならず生活面、精神面でもサポートする態勢が整えられていることは評価できる。 また、事業のアウトカム達成のための具体的な取組が顕著であり、教員と職員が連携して事務体制を強化し、国際化を推進した。更にコロナ禍においても、プログラムのオンライン化によってその影響を最小限に抑える対策を講じた点も評価できる。 一方で、受入及び派遣の学生数は計画値を上回ったものの、単位取得を伴う3ヶ月以上の交流が少なかった点に関しては、更なる周知広報が必要である。また、参加学生の外国語力基準の達成度が目標達成に至らなかった点についても、効果的な学修を一層推進する上で改善が望まれる。 最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	